

付属資料2 管理ファイルのXML記入例

(1) 業務管理ファイルの記入例

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>
<!DOCTYPE gyomudata SYSTEM "INDE_D04.DTD">
<gyomudata DTD_version="04">
  <基礎情報>
    <メディア番号>2</メディア番号>
    <メディア総枚数>3</メディア総枚数>
    <適用要領基準>農村振興土木 201903-01</適用要領基準>
    <報告書フォルダ名>REPORT</報告書フォルダ名>
    <報告書オリジナルファイルフォルダ名>REPORT/ORG</報告書オリジナルファイルフォルダ名>
    <図面フォルダ名>DRAWING</図面フォルダ名>
    <写真フォルダ名>PHOTO</写真フォルダ名>
    <測量データフォルダ名>SURVEY</測量データフォルダ名>
    <地質データフォルダ名>BORING</地質データフォルダ名>
  </基礎情報>
  <業務件名等>
    <業務実績システムバージョン番号>2.10</業務実績システムバージョン番号>
    <業務実績システム登録番号>10602990840</業務実績システム登録番号>
    <設計書コード>0220041060361</設計書コード>
    <業務名称>〇〇水路実施設計業務</業務名称>
  </業務件名等>
  <住所情報>
    <住所コード>12204</住所コード>
    <住所>〇〇県△△市××町〇丁目〇〇番地</住所>
  </住所情報>
  <履行期間-着手>2011-09-15</履行期間-着手>
  <履行期間-完了>2012-03-25</履行期間-完了>
  </業務件名等>
  <場所情報>
    <測地系>00</測地系>
  </場所情報>
  <水系-路線情報>
    <対象水系路線コード>19303</対象水系路線コード>
    <対象水系路線名>〇〇川</対象水系路線名>
    <現道-旧道区分>00</現道-旧道区分>
    <対象河川コード>8606040001</対象河川コード>
    <左右岸上下線コード>02</左右岸上下線コード>
  </水系-路線情報>
  <測点情報>
    <起点側測点-n>0015</起点側測点-n>
    <起点側測点-m>008</起点側測点-m>
    <終点側測点-n>0018</終点側測点-n>
    <終点側測点-m>005</終点側測点-m>
  </測点情報>
  <距離標情報>
    <起点側距離標-n>031</起点側距離標-n>
    <起点側距離標-m>045</起点側距離標-m>
    <終点側距離標-n>036</終点側距離標-n>
    <終点側距離標-m>067</終点側距離標-m>
  </距離標情報>
  </水系-路線情報>
  <境界座標情報>
```

業務管理項目の記入規則に基づき、赤文字の部分について内容を記述する。

<西側境界座標経度>1383730</西側境界座標経度>
 <東側境界座標経度>1384500</東側境界座標経度>
 <北側境界座標緯度>0352500</北側境界座標緯度>
 <南側境界座標緯度>0352000</南側境界座標緯度>
 </境界座標情報>
 </場所情報>
 = <施設情報>
 <施設名称>〇〇トンネル</施設名称>
 </施設情報>
 = <発注者情報>
 <発注者機関コード>02006007</発注者機関コード>
 <発注者機関事務所名>農林水産省〇〇農政局△△農業水利事業所</発注者機関事務所名>
 </発注者情報>
 = <受注者情報>
 <受注者名>〇〇建設コンサルタント株式会社</受注者名>
 <受注者コード>0000012300</受注者コード>
 </受注者情報>
 = <業務情報>
 <主な業務の内容>1</主な業務の内容>
 <業務分野コード>0112030</業務分野コード>
 <業務キーワード>パイプライン</業務キーワード>
 <業務概要>本業務は、〇〇農政局〇〇事業の基幹施設として建設される〇〇用水路の実施設計を行ったものである。実施設計の基本は、令和〇〇年度〇〇業務で実施された基本設計に基づいて行うものであるが、〇〇事業で実施されなかったボーリング調査及び路線測量の細部調査を実施した。</業務概要>
 </業務情報>
 <予備 />
 <ソフトメーカー用 TAG />
 </gyomodata>

記入項目が複数ある場合、DTD の構造に従い、繰り返し記入する。

(2) 報告書管理ファイルの記入例

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>
<!DOCTYPE reportdata SYSTEM "REP04.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="REP04.XSL" ?>
二 <reportdata DTD_version="04">
  二 <報告書ファイル情報>
    <報告書名>〇〇用水路実施設計業務</報告書名>
    <報告書副題>既設排水路の暗渠化に伴う計画見直し</報告書副題>
    <報告書ファイル名>REPORT01.PDF</報告書ファイル名>
    <報告書ファイル日本語名>報告書(第1章氾濫解析).XXX</報告書ファイル日本語名>
    <報告書ファイル作成ソフトウェア名>〇〇△_PDF 作成ソフト_2006</報告書ファイル作成ソフトウェア名>
    <設計項目>実施設計</設計項目>
    <成果品項目>本報告書</成果品項目>
  二 <報告書オリジナルファイル情報>
    <報告書オリジナルファイル名>REP01_01.XXX</報告書オリジナルファイル名>
    <報告書オリジナルファイル日本語名>〇〇用水路実施設計業務_報告書 01_01.DOC</報告書オリジナルファイル日本語名>
    <報告書オリジナルファイル作成ソフトウェア名>□△▽ワープロソフト_2006</報告書オリジナルファイル作成ソフトウェア名>
    </報告書オリジナルファイル情報>
  二 <報告書オリジナルファイル情報>
    <報告書オリジナルファイル名>REP01_02.XXX</報告書オリジナルファイル名>
    <報告書オリジナルファイル日本語名>〇〇用水路実施設計業務_報告書 P29 の表.XXX</報告書オリジナルファイル日本語名>
    <報告書オリジナルファイル作成ソフトウェア名>△▽〇表計算ソフト_2006</報告書オリジナルファイル作成ソフトウェア名>
    </報告書オリジナルファイル情報>
  二 <その他>
    <受注者説明文>受注者側で特記すべき事項がある場合は記入する。</受注者説明文>
    <予備>紙の成果品がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。
      (複数入力可)</予備>
    </その他>
  </報告書ファイル情報>
二 <報告書ファイル情報>
  <報告書名>〇〇用水路実施設計業務</報告書名>
  <報告書副題>既設排水路の暗渠化に伴う計画見直し</報告書副題>
  <報告書ファイル名>REPORT02.PDF</報告書ファイル名>
  <報告書ファイル日本語名>報告書(既設排水路の暗渠化に伴う計画見直し).XXX</報告書ファイル日本語名>
  <報告書ファイル作成ソフトウェア名>〇〇△_PDF 作成ソフト_2006</報告書ファイル作成ソフトウェア名>
  <設計項目>報告書</設計項目>
  <成果品項目>本報告書</成果品項目>
  二 <報告書オリジナルファイル情報>
    <報告書オリジナルファイル名>REP02_01.XXX</報告書オリジナルファイル名>
    <報告書オリジナルファイル日本語名>〇〇用水路実施設計業務_報告書 02_01.DOC</報告書オリジナルファイル日本語名>
    <報告書オリジナルファイル作成ソフトウェア名>□△▽ワープロソフト_2006</報告書オリジナルファイル作成ソフトウェア名>
    </報告書オリジナルファイル情報>
    <その他 />
  </報告書ファイル情報>
  <ソフトメーカー用 TAG>ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数入力可)</ソフトメーカー用 TAG>
</reportdata>
```

3 行目(<?xml-stylesheet~)は、XML 文書の書式(体裁)を指定する場合の宣言文。
書式指定を宣言した場合、XSL ファイルを格納すること。
スタイルシートを利用しない場合は、当該 1 行を削除する。

報告書管理項目の記入規則に基づき、赤文字の部分について内容を記述する。